

# “妙円寺詣り”

— 日置市 —

「妙円寺詣り旧暦 9 月 1 4 日」は、鹿児島県の三大大行事の一つに数えられています。

平成 5 年からは、多くの方々に参加して頂くために、毎年 10 月の第 4 土・日曜日に「妙円寺詣り」及び「妙円寺詣り行事大会」を開催しています。

徳重神社境内の弓道競技をはじめ 6 競技及び武者行列・太鼓踊り・生花・茶道等が行われます。

伊集院の徳重神社の祭神、島津氏第 17 代当主島津義弘公は、1600 年、今の岐阜県にある濃州関ヶ原の戦いで豊臣方として徳川方と勇戦奮闘しました。しかし、徳川方が優勢となり、退陣を余儀なくされました。その際、島津軍は、大胆にも敵陣の中央を突破して、養老及び鈴鹿山脈の険を越え、ついに堺の港から無事故郷薩摩に帰ることができました。この行事は、その間の言語に絶する艱難辛苦のあとを偲び、その剛勇を慕って、いつからともなく、鹿児島城下の武士たちが関ヶ原合戦の前夜にあたる 9 月 1 4 日に、鹿児島・伊集院間往復 40 キロを甲冑に身を固め、夜を徹して義弘公の菩提寺妙円寺（妙円寺は明治 2 年の廃仏毀釈で廃寺となり、その跡に同年徳重神社が建立されました。その後妙円寺は明治 13 年に復興しています。）に参拝したことに始まる行事であります。

平和な時も油断なく、非常時に備え武を敬い重んじる気性と質実剛健をもってあらゆる艱難辛苦に耐え抜く精神を養成するのに恰好の行事として、明治・大正・昭和・平成・令和と受け継がれて参りました。

戦後、軍国主義的色彩があると云われ、一方戦禍や刀狩りによって甲冑や刀剣が不足するなど一時衰微しましたが、数年後復活し年々隆盛の傾向にあります。

また、大会当日は、運動行事と併せて妙円寺詣りフェスティバル等、昼夜を問わず多くの参拝客で賑わいます。